

明舞地区 認知症のひとにやさしいまちづくりに向けた調査 結果概要



この調査は 2019 年 5 月～6 月に明舞地区（明石市松が丘、神戸市垂水区狩口台、南多聞台、神陵台）にお住まいの 65 歳以上の方全員を対象にした調査です。全戸調査を行い、2261 人（明石市 695 人、神戸市 1566 人）の回答を得ました（回収率 22.3%）。

神戸学院大学総合リハビリテーション学部認知症のひとにやさしいまちづくり研究講座
2019 年度研究

<本研究の問い合わせ先>

住所：〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬 518 番
TEL：078-974-5094 担当：相原洋子

認知症を有する人は、2025年には65歳以上人口の15%、700万人を超えるといわれています。認知症となっても自分らしく、地域での暮らしを続けていくためには、早期に認知機能の検査を受け、本人と家族が認知症の理解を正しくもち、将来に備えておくことが大切です。しかしながら日本では認知症の理解がまだ十分に進んでいるとはいえません。2018年度に明石市と神戸市では市民が認知機能検査を受けやすい環境をつくるため、全国で初めて認知症の診断助成制度を始めました。この制度を最大限活用するうえで、認知症の早期診断と支援に対するニーズを市民の方がどのように持っているのかを把握するため、市内でも高齢化率、特に75歳以上の後期高齢者割合が高い明舞地区において調査を実施することとしました。



調査対象地域の概要

※2019年4月、5月時点の住民基本台帳より算出

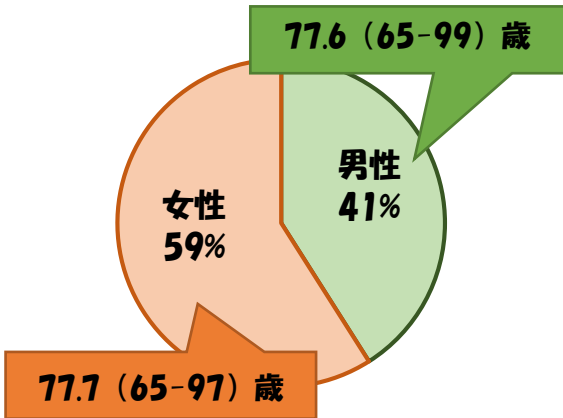
地域	世帯数/人口	高齢化率	75歳以上人口割合
明石市松が丘1丁目	1046世帯/1906人	44.3%	25.2%
明石市松が丘2丁目	813世帯/1363人	40.9%	24.9%
明石市松が丘3丁目	437世帯/1026人	32.2%	21.0%
明石市松が丘4丁目	869世帯/1280人	47.6%	30.2%
明石市松が丘5丁目	511世帯/1007人	39.0%	27.0%
明石市松が丘北町	356世帯/882人	22.1%	8.6%
神戸市垂水区狩口台1丁目	439世帯/687人	56.2%	34.4%
神戸市垂水区狩口台2丁目	498世帯/821人	48.0%	30.0%
神戸市垂水区狩口台4丁目	693世帯/1324人	43.4%	26.5%
神戸市垂水区狩口台5丁目	168世帯/391人	33.8%	23.3%
神戸市垂水区狩口台6丁目	654世帯/1364人	29.3%	14.8%
神戸市垂水区狩口台7丁目	562世帯/1262人	21.8%	10.2%
神戸市垂水区南多聞台1丁目	285世帯/543人	40.7%	22.8%
神戸市垂水区南多聞台2丁目	267世帯/576人	26.4%	15.6%
神戸市垂水区南多聞台3丁目	349世帯/643人	28.3%	13.1%
神戸市垂水区南多聞台4丁目	482世帯/1061人	32.3%	15.0%
神戸市垂水区南多聞台5丁目	87世帯/201人	29.9%	18.4%
神戸市垂水区南多聞台6丁目	298世帯/577人	39.9%	27.4%
神戸市垂水区南多聞台7丁目	679世帯/1114人	52.7%	30.6%
神戸市垂水区南多聞台8丁目	348世帯/684人	37.4%	24.3%
神戸市垂水区神陵台1丁目	277世帯/380人	60.0%	31.3%
神戸市垂水区神陵台2丁目	526世帯/980人	43.4%	25.6%
神戸市垂水区神陵台3丁目	364世帯/637人	54.8%	30.9%
神戸市垂水区神陵台4丁目	469世帯/946人	44.1%	28.2%
神戸市垂水区神陵台5丁目	314世帯/747人	30.1%	18.5%
神戸市垂水区神陵台6丁目	282世帯/407人	56.3%	31.4%
神戸市垂水区神陵台7丁目	246世帯/542人	42.4%	28.4%
神戸市垂水区神陵台8丁目	226世帯/485人	39.2%	28.9%
神戸市垂水区神陵台9丁目	537世帯/1214人	36.8%	24.1%

※赤字は市全体の高齢化率（明石市25.9%、神戸市27.9%）より高い地域。

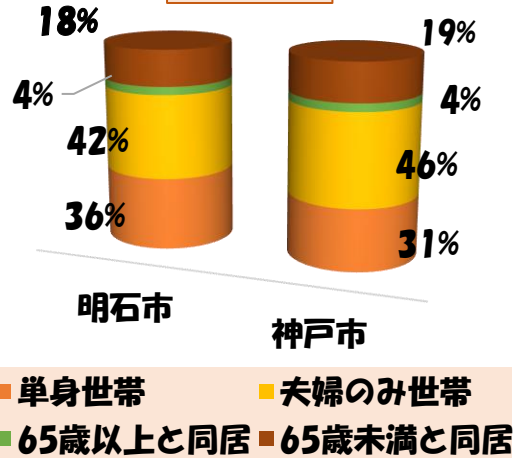
75歳以上人口割合：明石市全域12.9%、神戸市全域14.3%

調査協力者の概要

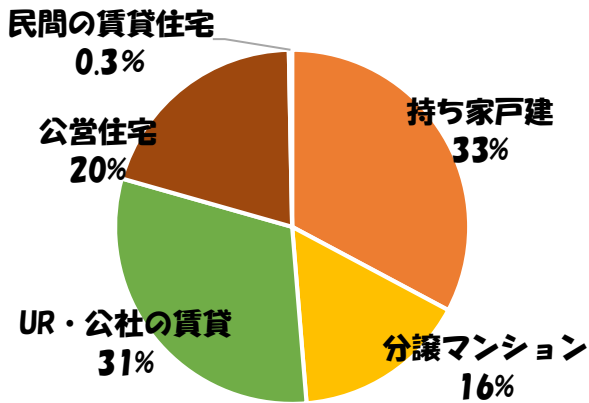
性別と平均（最小～最長）年齢



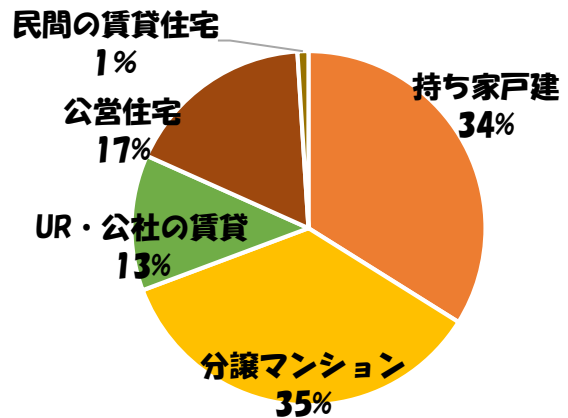
世帯構成



住居タイプ（明石市）



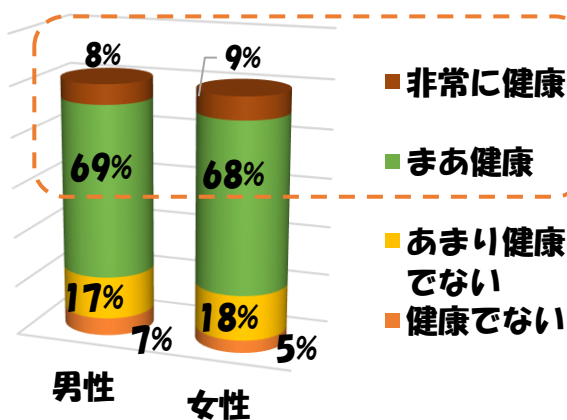
住居タイプ（神戸市）



調査協力者の健康・介護の状況

- ◆内服・治療などで通院を「している」人は、全体の82%でした。
- ◆かかりつけ医が「いる」と回答した人は、全体の88%でした。

今の健康状態について



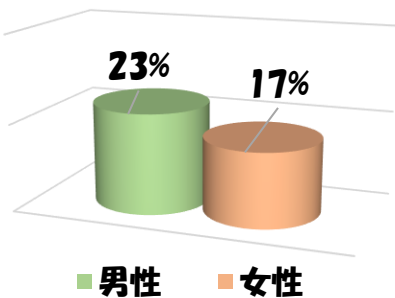
要介護認定を受けていると回答した人は、全体の24.6%でした。介護度の内訳は、以下の通りです。

- 要支援1・・・6.6%
- 要支援2・・・3.6%
- 要介護1・・・1.3%
- 要介護2・・・1.8%
- 要介護3・・・0.5%
- 要介護4・・・0.6%
- 要介護5・・・0.3%

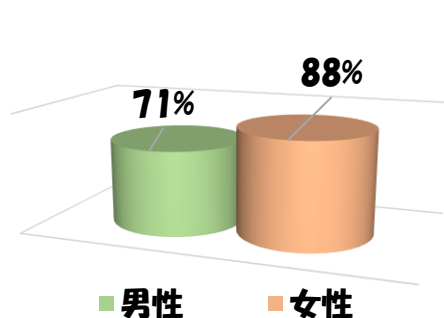
認定を受けている人の65%は、介護保険サービスを利用していました。

調査協力者の社会交流の状況（男女別）

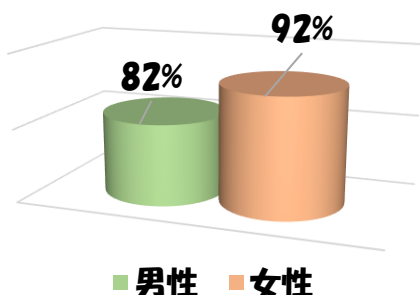
仕事をしている人の割合



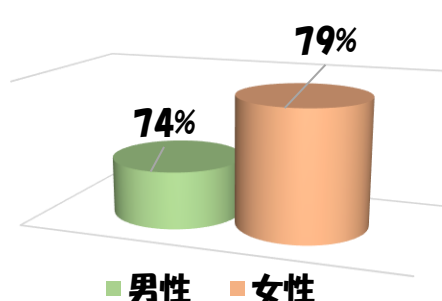
近所付き合いをしている人の割合



困ったときに相談できる人がいる割合



家族・友人から相談にのっている人の割合

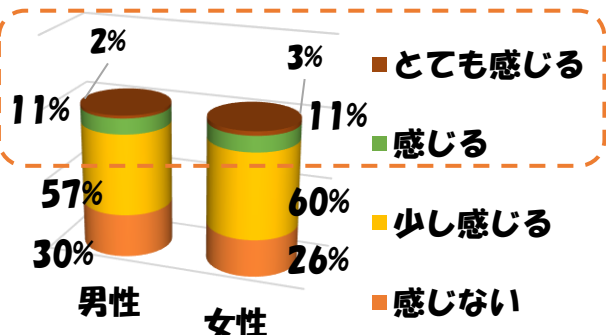


男性に比べて、女性のほうが「近所付き合いがある」「相談できる人がいる」「相談に乗っている」と回答した割合が高い結果でした。世帯別では、男女ともに「近所付き合いがある」「相談できる人がいる」人の割合は単身世帯で最も低く、また「相談にのっている」人の割合は、男性では単身世帯、女性は65歳以上家族と同居の人が低い結果でした。

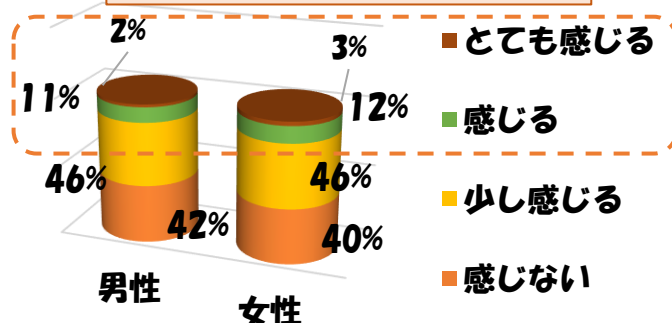
調査協力者の認知症に関する実態

アンケート調査では、DASC-21(ダスク21)という認知機能と生活機能の状態を評価できる指標を使って、認知症のアセスメントを行いました。基本的には研修を受講した人が客観的に評価を行うものですが、この調査では主観的な判断（一部は家族による客観的診断）により認知症の評価を行っています。

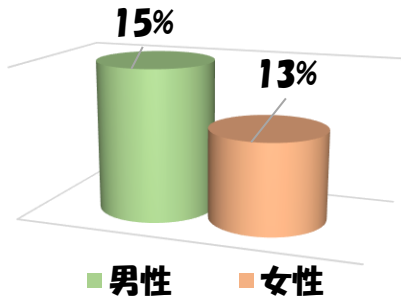
もの忘れが多いと感じる



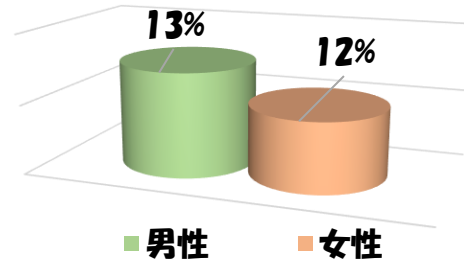
1年前と比べてもの忘れが増えたと感じる



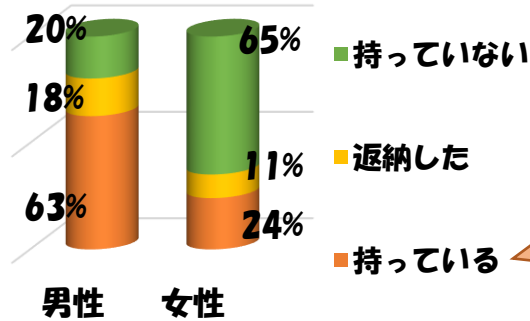
認知症の可能性がある人



認知症の検査を医療機関で受けたことがある人



自動車免許の保有状況



自動車免許を現在持っている方のうち、「近い将来免許証を返納しよう」と考えている人は、男性で44%、女性で62%でした。また DASC-21 で認知症の可能性のある人の2割が、「現在免許証を持っている」と回答し、2割が「返納した」と回答しました。

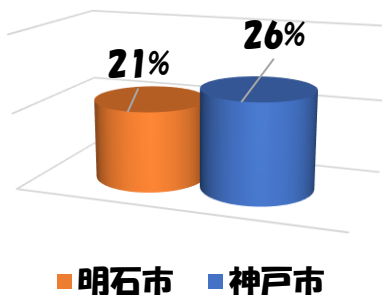


明石市と神戸市では認知症の診断助成制度が始まりました。ただし両市の診断助成の仕組みは異なりますので、以下を参照にしてください。

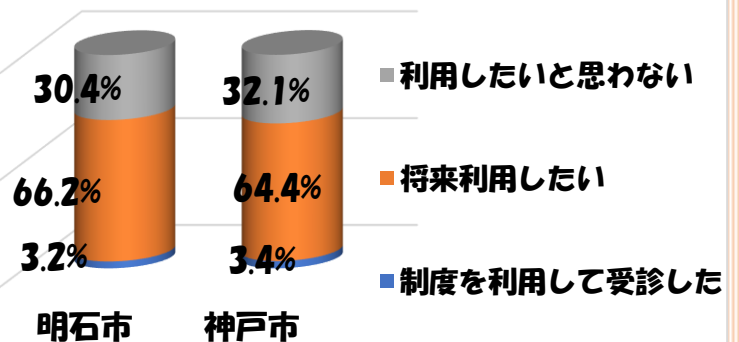
【明石市の場合】 対象者は75歳以上。市が配布する「チェックシート」に本人・家族が記入し、市に提出。認知症の疑いがあれば、初期診療費として2千円補助、MRIなどの画像診断が必要な場合は上限5千円補助。認知症と診断されれば、GPSの1年間利用料もしくは通院に使えるタクシー券のどちらかを利用できる。

【神戸市の場合】 対象者は65歳以上。市に受診券をもらい、認知症診断の登録をしている地域の医療機関で認知機能検査を受ける。認知症の疑いのある人はさらに専門の医療機関で認知機能精密検査を受ける。どちらの場合も医療費の自己負担はゼロ円。認知症と診断された人は、事故救済制度の賠償責任保険などに加入できる。

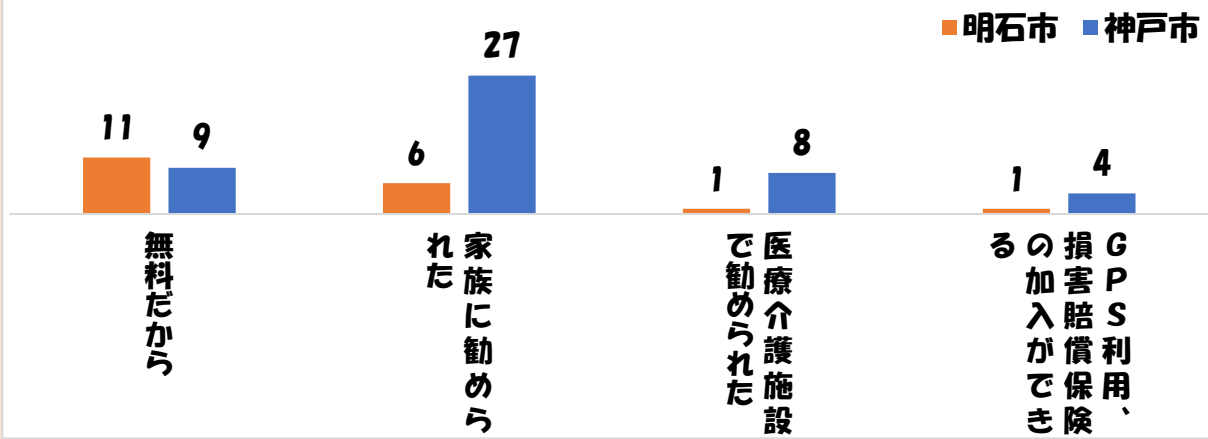
認知症の診断助成制度を知っている人



制度の利用状況

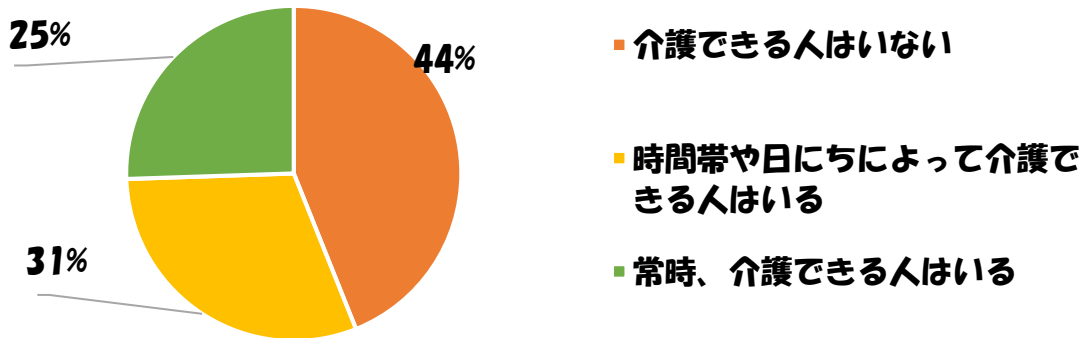


制度を利用した理由（複数回答・単位は人）

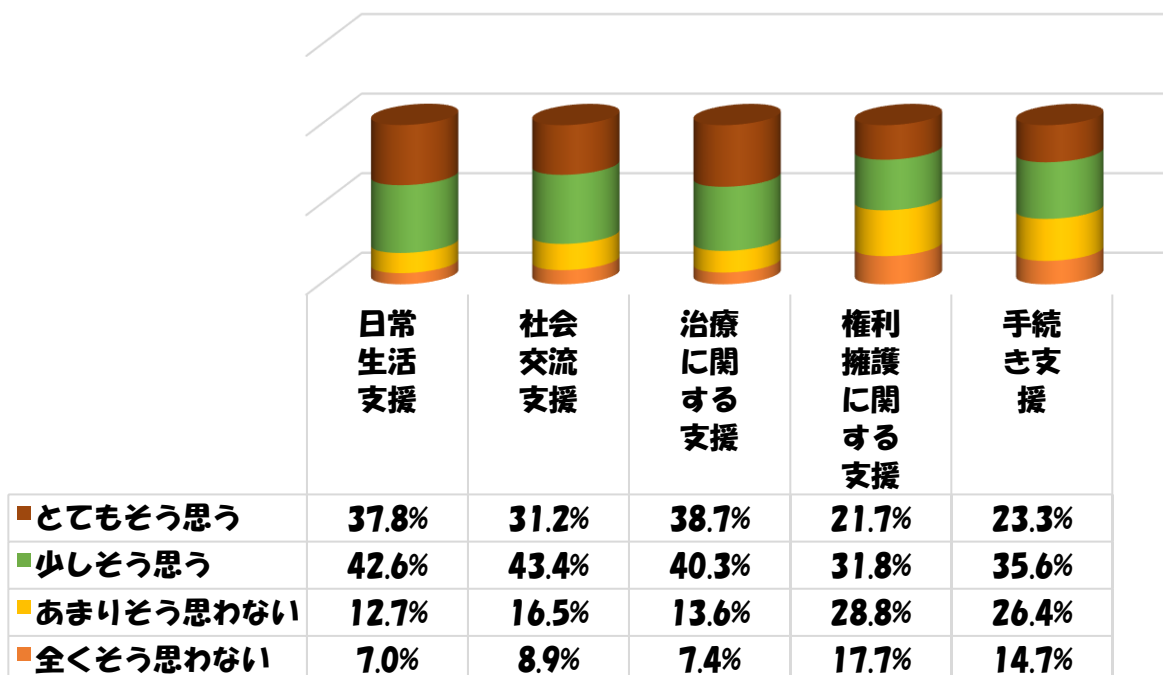


調査協力者の介護・認知症支援ニーズ

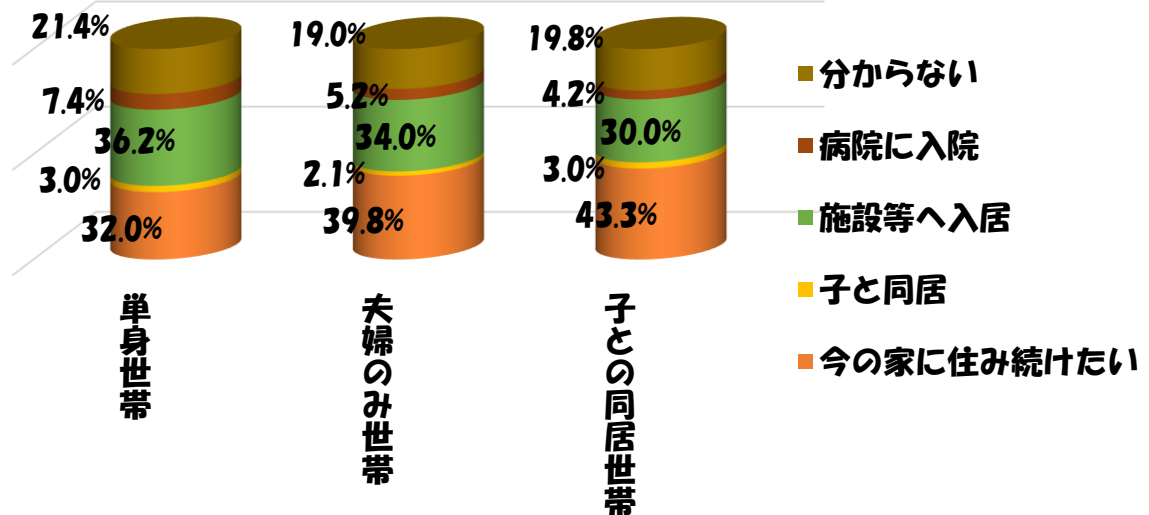
介護必要時に家庭内で介護をしてくれる人の有無



認知症・軽度認知障害の診断時に必要と思う支援



認知症・要介護状態時の住まいの希望（世帯別）



認知症になったときに必要と思われる支援（自由記述）

- 認知症になってみないと分からない。
- 安く入れる/年金内で入れる、施設の紹介。
- 家族への支援。介護負担の軽減。
- 声かけ、見守り、ゴミ出し。
- 気軽に相談できる窓口。
- 火の元が心配。
- 思い出の場所、故郷に連れて行ってほしい。
- 夜間のヘルパー派遣。
- 外出時に介護者が異性（例：娘と認知症の父）だと、トイレに行く間外で待たせるのが不安。
- 認知症カフェ、子どもと遊んだり、若い人たちとしゃべれる環境があればいい。
- 本人に自覚がないのでどうしたらよいか。要望がなくても認知症が進んでいないか、定期的に調査に来てほしい。



調査からみえた認知症診断助成制度について

- 明石市では2018年9月から、神戸市では2019年1月から認知症診断助成制度が開始されていますが、制度を知っている方は明石市では2割、神戸市では3割弱の方と、十分な周知が進んでいないことが把握されました。
- 診断制度を知っている方は、介護保険サービスを利用している方に多い傾向が示されました。介護事業所など専門家からの積極的な情報提供がなされたためと考えられます。
- 認知症診断時の事故救済制度について知っている方は3割と、診断助成制度の認知度よりも高い割合でした。認知症支援の具体的な政策があると、周知が進むのではないかと考えられます。
- 認知症あるいは、軽度認知障害と診断された時の支援として、通院や服薬管理などの「治療の支援」、買い物・掃除などの「日常生活支援」、外出付き添い・話し相手などの「社会交流支援」のニーズが高いことが示され、今後このような支援を提供できる環境づくりが必要と考えます。

認知症は治療方法が確立されていないことから、「認知症と診断されたらどうしよう」と不安になる方は多いと思います。しかし早期に認知機能検査を受けることで、本人が受けてみたい支援やサービス、将来の過ごし方について選択し、意思決定することが可能となります。認知症の人にやさしいまちづくりを目指すうえで、以下のことを参考にしてください。

め・・・メリットを感じられる診断制度の確立

認知症あるいは、軽度認知障害の診断された場合も、スムーズに支援につながる仕組みが具体化していることが、診断助成制度の活用で重要と考えられます。

い・・・いろいろな資源をうまく活用

調査協力者の4割の方は、介護必要時に家庭内で介護者がいません。いざという時に、家族以外に頼れる存在が必要です。地域にある様々な相談窓口やボランティア団体など、住民同士でつながる資源がありますので、それらをうまく活用していきましょう。

ま・・・まわりの人への意志表明

明舞地区は単身世帯高齢者が他の地域と比較して多い特徴があります。家族だけでなく、友人、近所の方、民生委員や医療介護の専門家など信頼できる人に、自分がどんな生活を送りたいかを意思表明しておくことで、認知症となっても早めの支援に結び付きやすいと考えられます。

い・・・いまから備えるの心構え

自由回答では「認知症になってみないと分からない」という回答が最も多く、認知症をわが事と感じにくい状況が把握されました。「なってから」ではなく、「もしも」を考えて、今から情報を集めておくことが重要です。

こんな時のための問い合わせ一覧

◆介護保険、福祉に関することは、地域包括支援センターへ

明石市松が丘にお住まいの方は、あさぎり・おおくら総合支援センター TEL:078-915-0091

垂水区持口台・南多聞台1、8丁目にお住まいの方は、舞子あんしんすこやかセンター
TEL:078-787-5231

垂水区神陵台・南多聞台1~6丁目にお住まいの方は、神陵台あんしんすこやかセンター
TEL:078-742-8004

◆気軽に健康や介護に関する相談をしたい場合は、めいまい保健室へ TEL:090-1225-3861
看護師・保健師、社会福祉士が常駐しています。

◆住まいや空き家、家の片づけの相談は、くるくる明舞へ TEL:090-8369-9696
住まいの相談や行政書士、弁護士、住宅会社などと連携し、無料個別相談会を開催しています。